

札幌市立はまなす幼稚園

〒063-0826

西区発寒6条12丁目4-10

【札幌市立西小学校との連携】

- ・本園では、幼児期から児童期への生活や学びの連続性を踏まえ、幼児教育の充実を図るために札幌市立西小学校との交流を教育課程に位置付けて実践している。
- ・近隣の公園での出会いから始まり、幼稚園に来て一緒に遊んだり、小学校の学習発表会を観覧したりした。また、3学期には学校探検や授業、給食体験をするなど年間を通して様々な交流をしてきた。

【成果】

- ・1年生が運動会で踊った曲を幼稚園で取り上げたことで小学生への憧れや身近に感じ、一緒に遊ぶ喜びにつながった。この踊りを、次は園の中で年少・年中に張り切って教え、園全体で楽しむ姿につながった。
- ・学習発表会の姿に刺激を受け、声の出し方を真似るなど、「やってみたい」「かっこよくしたい」と、意欲が高まった。
- ・3学期の交流を楽しみに出掛け、小学校の先生の全体への指示を聞きながら、理解して行動しようとしていた。

【考察】

- ・互いに思い切り楽しく遊べる内容にすることで、幼児は、一年生の姿から憧れの気持ちを抱き、また会いたい気持ちが見られた。一緒に楽しめる遊びを事前に打ち合わせ、関わるきっかけづくりや幼児の思いを言葉にするなど、つなぐ役割をすることが大切である。
- ・幼児にとって一年生と遊んだり活動したりできたことは、小学校生活のイメージや期待につながった。また、教師にとって互いの子どもの発達やその時期の特性、学びの姿などを知り、接続期の生活について考えるきっかけになった。



【初めての出会い。1年生が運動会で踊った踊りを一緒に踊ってたよ】



【小学生と幼稚園で大きなおうちを作ったよ】



【小学校の授業に参加したよ】



【小学校を探検。図書館は本がいっぱいあったよ】

【地域の保育園との連携…五年生が担当！】

本校では、五年生が総合的な学習の時間を使い、地域の山の手保育園やきしゃぼっぽ保育園の年長組との交流を行っている。

幼稚園や保育園との交流は、一般的には生活科の時間を使い、一年生が主となって行うことが多い。一方本校では、児童に「最高学年になる。」という意識を高め、成長を促進するため、五年生の三学期の活動として設定している。

交流では、新六年生となる五年生が、四月からお世話する新一年生のことを知り、もっと仲良くなったり、学校のことを教えてあげたりすることを目標としている。

実際に保育園に行き、「小学校で楽しみなこと」をインタビューしたり、一緒に遊んだりした経験を活かし、「安心して小学校に来てもらい、楽しんでもらうにはどうしたらよいか」と考えることで、人のために考えて行動することの大切さも学んでいる。



【学校探検でクイズに挑戦】

【成果…最上級生になる自覚】

このような交流を行うことで、六年生になってから自分たちが何をしなくてはならないのか、どうあるべきなのかを考える契機となった。それが、最上級生になるという自覚をもつことにもつながった。また、一人一人が考える力や行動力を身に付け、自分から積極的に活動する力を伸ばすことにつながっている。

保育園の先生たちからも、小学校に対して不安をもつ子も出てくるこの時期にこのような交流を行うことで、小学校に対する期待感が増しているという意見をいただいている。小学生にとっても、保育園児にとっても、新年度に向けて実りの多い交流である。



【小学校体験でひらがな練習】

【考察…スタートカリキュラムへ結節】

このような取組を継続することによって、小学校、保育園がお互いの子どもの活動の様子を知ることができる。小学校側は入学してくる一年生にどのような働きかけが必要であるのか、保育園側は入学するまでにどのような指導が必要なのかを知ることができる。現在は、保育園児が小学校に来る活動、一部の児童が保育園を訪れる活動にとどまっているが、五年生全児童が幼稚園や保育園を訪れる活動に進化させていくことも検討している。ひいては、学校全体として新一年生をどう迎えていくのかを整理し、本校の「スタートカリキュラム」として結節させていきたい。

札幌市立手稲宮丘小学校

〒063-0053

西区宮の沢3条2丁目1-1

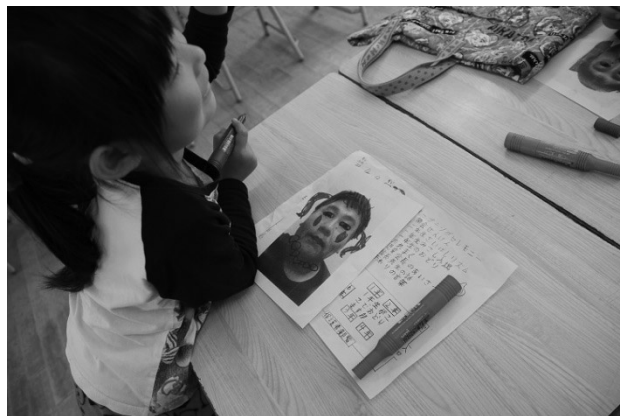
【近隣の幼稚園・保育園との連携】

本校の開校記念日(9/12)の前日には、児童集会「宮丘まつり」が開催される。3年生以上の各学級が工夫を凝らして出店し、時間があっという間に過ぎてしまうような楽しい一大イベントである。

この「宮丘まつり」に、近隣の幼稚園・保育園の園児(主に年長児)に来校してもらい、本校児童と一緒に楽しんでもらっている。

実施期日がほぼ固定していることで予定が立てやすい上、この時期は気候に恵まれることが多いことから、ここ数年は幼稚園・保育園から継続して来校していただいている。

また、このような学校行事への参加にとどまらず、本校に隣接する宮丘公園を散策に来た幼稚園・保育園が本校のグラウンドで昼食をとったり、ハロウィンの時にはオリエンテーリングのコースに位置付けていただいたり、近年は様々な形での交流がなされてきている。



【先生の顔にペイントしちゃった！】



【ねらいを定めて…えいっ！】

【成果】

上記の「宮丘まつり」では、このような継続的な取組から、本校児童も準備・計画段階から「来てくれた幼児が楽しめるような要素も含めた遊びを計画しよう」という意識を自然ともつことができ、それらの具体的な工夫を話し合い、実現していく姿が見られる。

本校児童にとって、来校する幼児の姿を具体的に思い浮かべることができる点からも、継続的な取組のよさが成果として見られる。

【考察】

この他に、学習発表会(児童公開日)の際にも来校していただいている。ただ、日程によっては、幼児にとって難しく感じる発表内容となってしまう場合がある。

このような例は他にもあり申し訳なく思うものの、学校教育でねらうところはしっかり意識して取り組むことが大切なので、互いに無理せず、持続可能な範囲の取組を継続したり、工夫したりしたい。

札幌市立八軒小学校

〒063-0844

西区八軒4条西1丁目1-8

【連携の経緯・内容】

八軒地区では、平成10年から近隣の小学校と幼稚園・保育園との交流が始まりました。琴似中央小学校、八軒小学校、八軒西小学校、八軒北小学校の小学校4校と幸明幼稚園、琴似教会幼稚園、琴似中央幼稚園の3つの幼稚園、八軒太陽の子保育園、八軒星の子保育園の2つの保育園で交流しました。その後、新設された吉田学園さくら保育園、認定こども園かがやき、アートチャイルドケア札幌八軒が加わり、1年に2回、幼保小の懇談会を開いています。小学校が1学期に1年生の授業を公開、幼稚園・保育園が3学期に年長の活動・保育の様子を公開し、その後、懇談会を開いて交流をしています。



< 6月 小学校の授業公開 >



< 2月 幼稚園・保育園の保育公開 >

【成果】

- ・年2回の幼保小の懇談会は、小学校、幼稚園、保育園のそれぞれの取組の様子を知る、学ぶことができる機会となっている。学校、幼稚園の先生、保育園の保育士が会うことにより、連絡を取りやすくなっている。
- ・今年度の1学期、八軒北小学校で授業公開が行われました。幼稚園・保育園の方々が小学校に入学した卒園児の様子を見ることができ、八軒北小学校のスタートカリキュラムをもとに、小学校生活へのスムーズな移行の仕方について交流することができました。
- ・今年度も、「幼稚園・保育園の子たちが、校地内に入って学校の大きさを感じたり、学校で飼育している生き物を見たりすることでも、小学校への期待をもつことになる。」という声を受け、肩肘張らない交流を行ってきました。「寄りたいのですが…」と連絡が来て、飼育小屋を見ていく姿が何度もありました。また、遠足で児童がいない日にグラウンドを借りて、運動会をする保育園があり、児童が練習の様子を見る機会もありました。
- ・ミニ児童会館が近隣の幼稚園・保育園に館のPRをかねて、今年度も交流しています。

【考察】

- ・交流の中で、保育園から「学習発表会の日、9時に見学に行くことは難しいので、学習発表会の練習の様子を見学させてほしい。」という申し出があったので、是非具現化して行きたいと考えています。



札幌市立二十四軒小学校

〒063-0802

西区二十四軒2条3丁目1-3



本校の1年生が、ちあふる・にしの年長児を招いて、自らが企画・運営するゲームコーナーで交流しました。

写真は多目的ホールでの一コマです。

【成果】

学習発表会の児童公開日（水・木曜日に実施）にお越しにいただいているが、園児の引率等で幼稚園・保育園には、かなりの手間をおかけしている。ただ、はじめて小学校の体育館の中に入り、児童の劇を観覧することによって、どの園児も小学校への入学を非常に楽しみにするきっかけとなっている旨、うかがっている。

約1か月後に実施する全校児童集会では、園児も自ら参加できることもあり、より小学校生活への期待感が増し、幼稚園・保育園での保育における意欲も向上するようである。

【考察】

校区内における連携は、今から約15年前から続いているものである。

今年度は校区内に2つの新しい保育園が開園し、連携の輪を広げたところである。

また、昨年度から始めた、小学校の職員がある保育園の懇談会に出向いて、入学に向けての心構えや準備について説明する機会を今年ももった。別の保育園の職員や保護者にも参加をいただいたところである。



学習発表会では最前列で各学年の劇を観覧します。

札幌市立発寒南小学校

〒063-0822

西区発寒2条4丁目1-1

【発寒保育園との連携】

- 平成25年度より、年長児を招待し、1・3・5年生の児童公開を、全校児童と一緒に楽しんでもらっています。
- この取組を行うきっかけとなったのは、当時の担当者が、西区幼・保・小連絡会議で話をするできるようになったことです。小学校のことがなかなかわからないという保育園の思いを聞き、学習発表会に招待することができるようになりました。
- 受け入れる側の小学校では、行事の仕事分担の一つとなり、1年生の児童が発寒保育園の児童を招待する、1年生の担任が発寒保育園と連絡を取り合うという仕組みができています。



【一番前で楽しく見てね♪】

【成果】

- 保育園の子どもたちが一番前の席で一生懸命見てくれることが、演じる児童の意欲につながっている。楽しそうに劇を見て、声をかけてくれる園児のおかげで、のりにのって演技できる児童がたくさんいました。
- 今年度は、1年生が保育園の園児に招待状を描きました。この学習発表会の時に保育園の園児とつながったことが、2月に行われる体験入学のお世話の下準備となっています。



【保育園からお礼状が届いたよ】

【考察】

- この取組も回数を重ねたことで、担当者だけの話ではなく、学習発表会には発寒保育園の園児を招待し、見てもらうんだという意識が他の教職員にも定着しました。
- 今年度はみんなで作った招待状を送りましたが、小学校・保育園の幼児児童が直接、関わり合えるような取組も考えてみたいと思います。例えば、終わった後に玄関まで連れていく、握手でお別れするなど、1年生の自信につながり、また、保育園の子の不安を取り除ける、簡単な活動ができれば良いと考えています。
- また、学校だけでなく、開放図書館の活動にも親子で気軽に来校できるような場をつくるなど、地域ということも意識しながら、互いに無理のない、できる範囲での有意義な活動を一緒に探っていきたいと思います。

札幌市立西小学校

〒063-0827

西区発寒7条13丁目

【幼稚園・保育園との連携】

入学した子どもを理解する方法として、幼稚園・保育園との引継事項は大変参考になる。しかし、実際に児童が学級の中に入った時に思わぬ反応を示したり、幼稚園まで問題のなかった児童が問題行動を起こしたりすることもある。

そこで、担任がいつでも幼稚園や保育園に直接聞くことができる体制を整えることが重要だと考えた。

今年度は、運動会や学習発表会などの行事を園児に見に来てもらい、互いの幼児児童の様子を見合うことだけでなく、教師自身が公開保育を積極的に参観したり、園児を招き、1年生がいっしょに交流する姿を見たりするという場をつくった。さらに2月の新1年生一日入学では、現1年生の担任が園児たちに授業し、その様子を観察するという機会も設けた。

以上の取組を振り返りながら幼保の教師との引継や受入れをすることで、より充実したスタートアップカリキュラムができると考えた。

【成果】

- ・昨年に引き続き、それまで一番下の学年としてお世話されている立場だった1年生が、お兄さんお姉さんとして、お世話する意識が芽生えるとともに、4月から1つ上の学年として新1年生を迎え入れようとする意欲が育ってきている。
- ・前年度の段階で新1年生となる園児たちの姿を見合う、幼保と小の教師が積極的に交流する機会を計画するといった取組をもつことでお互いのつながりが深まり、より充実した連携をとることができた。

【考察】

スタートアップの取組時期となる4月初めの児童の様子が幼保の教師たちには興味深い時期であると思われるので、早い段階での教師間交流は必要と考える。

また、園便り、学校便り等を交換し、どのような行事がいつ行われるのか、そこに何らかの形で参加できないかなどを考えられるような情報のやりとりをしながら、幼小の教師が共通認識に立てるようになるとさらに有効な連携になる。



6月～1年生とはまなす幼稚園の園児たちとの交流



2月～新1年生となる園児たちが授業を受ける。



1月～はまなす幼稚園の小学校訪問。1年生たちが楽しく迎えました。

【西野保育園との連携】

・連携について

5年生の総合的な学習の時間として

単元名「保育園の子どもと遊ぼう」（10時間）

＜育てたい力＞

- ・ 保育園との関わりを通して思いや願いをもち、課題を見つける。（考える力）
- ・ 内容にあった計画を選択し、工夫して計画を立てる。（取り組む力）
- ・ 友達と話し合いながら協力して活動する。園児の気持ちを考えながら交流する。
（表現する力）
- ・ 保育園との交流の経験を生かし、新一年生のお世話に向けて準備を進める。
（活用する力）

＜活動の流れ＞

- ①オリエンテーリング
- ②調査の時間
- ③話し合い
- ④計画・準備※招待状づくり
- ⑤リハーサル
- ⑥交流本番（2月25日）
- ⑦反省・お礼の手紙、園児たちへの手紙

＜連携先との関係＞

- ・ 西野小の校区にある保育園
- ・ 本校に入学する園児が多い。
（来年度は新1年生47名中西野保育園から13名入学予定）
- ・ 歩いて5～10分程度の距離にあり
運動会も本校体育館を利用して、実施している。

【成果】

- ・ 保育園との交流を行う事により、5年生で育てたい力「園児の気持ちを考えながら交流する」に関しては、次年度の4月からの1年生のお世話に向けて、「かなり目線を下げなければならない」「声かけも今の1年生とよりも優しく、丁寧に、ゆっくりかけなければならない」ということに気付くことができた。
- ・ 本校に入学してくる園児は、「あの時のお兄ちゃんだ。」「あの時、〇〇して遊んだね。」など、入学してきた時、すぐに学校生活に慣れることができることが多い。
- ・ 毎年、交流を行う事により、5年生は計画から楽しみにしている。

【考察】

- ・ 継続することにより、入学してくる幼児の様子も分かるし、保育園との連携も日常から行える。
- ・ 新たな取組としては、学習発表会への招待や保育園との交流も2回（保育園へ訪問と小学校に招待）にしていくことを検討中である。



【遊びランドで遊んでいる園児】

【西野あおい保育園との連携】

西野あおい保育園は、本校に多くの園児が入学していて、交流活動を積極的に行っています。

○あおい保育園訪問(6年生) 8月26日(水)

総合的な学習の時間「職業体験」で、6年生が訪問しました。園児たちと一緒に遊んだり、お世話をした中、園児との関わり方や働く先生方の大変さややりがいを感じることができました。



【園児のお世話をする6年生】

○学習発表会練習の見学 11月9日(月)

1年生の学習発表会の練習を見学に来ました。1年生が一生懸命演技する姿を真剣に見ていました。

後日、メッセージカードを持ってきてくれました。「楽しかったよ。」「本番も頑張ってるね。」のメッセージがたくさん書かれていました。



【演技する1年生と真剣に見入る園児】

○授業の見学(1年生と特別教室) 2月16日(火)

1年生の学習している様子を見学しました。学習する姿を真剣なまなざしで見つめていました。

また、理科室や音楽室などの特別教室の見学も行いました。



【1年生の学習見学】

○保護者との就学懇親会 1月14日(木)

本校校長と入学予定の保護者との懇親会が毎年行われています。小学校の様子や入学に向けての心構え等を伝えています。保護者の質問にも答える形で行っています。

【成果】

- ・園児たちは、安心して新学期の入学を迎えられるようになっています。
- ・園児たちは、学校訪問を毎年楽しみにしているようです。
- ・年下の相手にどのように声をかけ、どのように関わるとよいのかを考える経験となり相手意識が育ちました。

【考察】

- ・保育園の先生と打合せを行い今後も継続して交流活動を行っていく。さらに交流がより充実したものになるように工夫・改善を考えていく。

【手稲東保育園:学習発表会見学の連携】

校区内の手稲東保育園の年長児が、学習発表会児童公開に訪れました。児童公開日の1日目、プログラム2番目・3年生の劇を鑑賞しました。

幼保小連携推進協議会をきっかけに平成25年度からスタートした交流です。小学校から日程をお知らせし、保育園で日程調整後、簡単な打合せの後、実施しました。

子どもたちは3年生の劇「三びきのこぶた」を、落ち着いた姿勢で鑑賞していました。「立派な姿勢でみることができました。お行儀も挨拶も立派です。」と高安教頭よりお話があり、西園小の児童からたくさんの拍手がわきました。



【学習発表会:3年生の発表と鑑賞する園児】

【手稲東保育園・西野さくら幼稚園:3年総合的な学習での連携】

【育てた花を保育園に届けに行きました】



3年生の総合的な学習の時間「自分たちの花で西野をかざろう」の学習で、西野さくら幼稚園・手稲東保育園のご協力をいただき、育てた花の鉢を置かせていただきました。

【成果】

- ・幼稚園・保育園の集団行動の様子や施設の雰囲気を知ることができた。
- ・交流することにより、互いに支え合い、憧れや自覚が生まれ、心の成長につながる。
- ・職員同士の話す場が増え、顔見知りになる機会が増える。

【考察】

- ・お互いに無理なく、設定した交流の機会を継続していくことを大切にしたい。
- ・小学生が園を訪問し、触れ合えるような交流を計画していきたい。総合的な学習の時間を使って児童が学習させてもらうなど、小学生と児童・園児との交流を検討していきたい。
- ・職員の連携を図り、打合せや研修の場を設定して情報の共有を進めていきたい。

札幌市立八軒北小学校

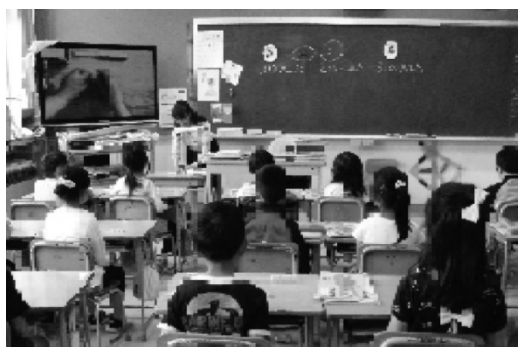
〒063-0848

西区八軒 8 条西 6 丁目 1-1

【子どもの活動の参観・懇談会】

連携の様子

西区幼保小連携推進協議会の2ブロック（八軒地区）では、1年に2回、小学校の授業と幼稚園・保育園の様子を見学し、活動内容や取組などについて交流することを通して、お互いの教育活動について理解する活動を行っている。今年度は、6月に本校を会場に特別支援学級を含む1年生3学級の公開授業と授業後の懇談会を行った。懇談会では、本校のスタートカリキュラム、生活科の年間活動計画、入門期に大切にしていることなどについての説明、各校・各園の活動についての交流が行われた。



2月には、幼稚園の保育公開と懇談会が予定されており、子どもの育ちについての更なる共通理解を図っていく。

連携に至る経緯

幼稚園・保育園との連携は、毎年1月～3月にかけて、担当者が新1年生が通っている幼稚園・保育園を訪問。年長児の活動の様子を参観し、参観後は、年長の担任から幼児の様子についての話を伺っている。幼稚園・保育園と小学校では、1日の生活リズムが大きく異なるが、生活の基盤そのものは、小学校の入学する前の幼稚園・保育園で十分に培われてきている。幼稚園・保育園を訪問し、活動を参観することで、スムーズに小学校生活のリズムに慣れるように、小学校での指導方法や指導内容にも生かしてきた。



＜1年生の学習公開＞

連携先との関係

今年度は学校便りの配付に加え、運動会、学習発表会、八北パーク（スキー山）の利用等、園児の学校行事への観覧や施設の使用について案内をしてきた。活動時間帯や時期などの調整を行い、交流を進めたい。



＜幼稚園・保育園との懇談会＞

【考察】

ブロックの交流会や園訪問により教師間の連携は深まっているが、園児との交流は一日入学にとどまっている。生活科の学習としても、夏は1年生が園児たちに畑の作物を紹介したり、冬には、グラウンドのスキー山で一緒にそり滑りをしたりするなど、様々な活動が考えられる。教職員間の連携は今後も継続させ、さらに、子ども同士もつながり合うような活動を構成していけるとよいと考える。

☆目指す活動 1年生と幼稚園児の双方に、学習効果が期待できる活動
互いに関わり、協力しながら一緒に楽しめる活動

※ **グループは3回とも 固定**

	子どもの意識と主な活動	教師の関わり（サポート）
1回目 10月5日 （月）	みんなであそぼう！ ◆ねらい：互いに協力し合いながら活動を楽しみ、次への期待につなげる。 ◆場所：平和幼稚園、園庭 ※雨天時は園内 ◆企画運営：平和幼稚園（ワッペン作製） ◆主な活動：同じワッペンの友達を探し、名前を覚える。園内を探検し、カードと同じ色のものを見付ける。	・事前に…名簿作り（幼、小） ・当日…ペアを確認できるような関わり ※持ち物： ・体育帽子（雨天時は上靴袋） ・グループに一つ探検バッグ
2回目 11月11日 （水）	いっしょにあそぼう！ ◆ねらい：お互いに関わり合いながら楽しく活動する。 ◆場所：平和小学校 体育館 ◆企画運営：平和小学校 ◆主な活動：1年生が先生役になり、園児が紙コップロケットを作る。	・事前…共に活動できる遊びを企画。（作る遊び） ・当日…説明がうまくできないグループのサポート
3回目 12月16日 （水）	いっしょにまわろう！～小学校探検～ ◆ねらい：園児は1年生への憧れを、1年生はお兄さん・お姉さん意識をもてるようにする。 ◆場所：平和小学校 校内 ◆企画運営：平和小学校 ◆主な活動：チームごとにあらかじめ計画していた順番で校内を探検し、教室を案内する。	・事前…学校オリエンテーリングの準備 ・当日…予定通りに学校探検を進められるようにする。

☆各日程・・・3・4校時 ☆18チーム編成（各チーム1年生は3～4名 合計は9～12名）

【平和幼稚園との連携】

- ・本校と平和幼稚園は、敷地が隣接しており、連携が取りやすい位置関係にある。
- ・ここ数年は、継続して交流を行っている。今年度は3回、お互いに行き来し、一緒に活動を行った。

【交流1回目】



【交流2回目】



【交流3回目】



【園内を探検している様子】 【作り方を教えている様子】 【校内を案内している様子】

【成果】

- ・普段は上の学年にお世話になっている1年生も、園児をお世話する立場になることで、使命感や責任感をもって活動することができた。

【考察】

- ・1年生は学校では一番下の学年なので、「誰かをお世話する。」という経験が少ない。今回の幼小交流では簡単工作や学校探検などの活動を通して、園児をお世話することができた。この経験は自分たちが2年生になったときに異学年交流などの活動で生きてくると思われる。
- ・交流回数は3回と少ないが、内容の充実を図るため連携先と共に反省をし、より効果的な活動へと改善する必要がある。